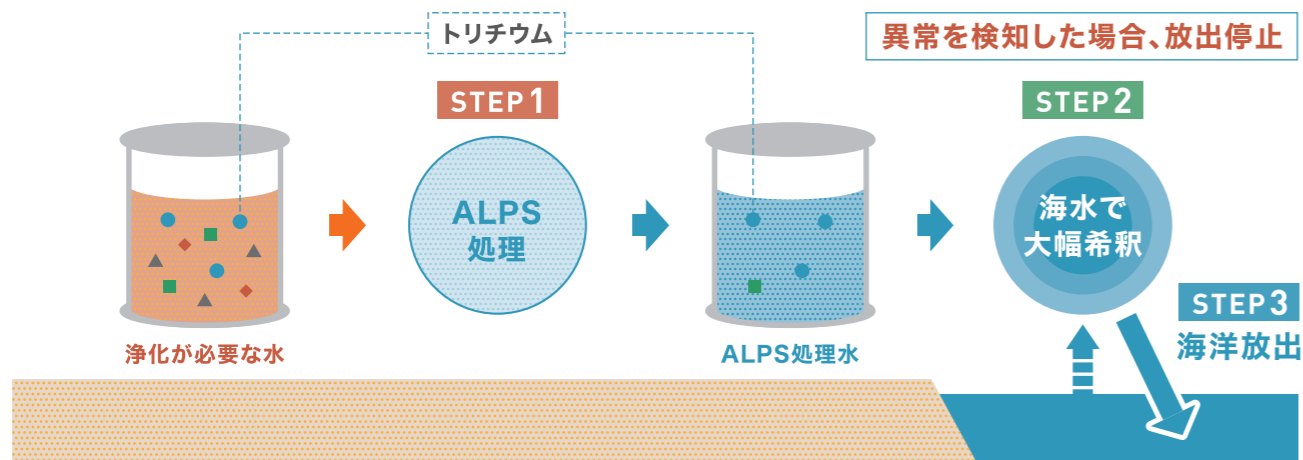


ALPS処理水の海洋放出のプロセス



※ 海洋放出前に、IAEAなどの第三者機関も測定し、客観性を確保。

ALPS処理水の分析結果はこちら→



東京電力

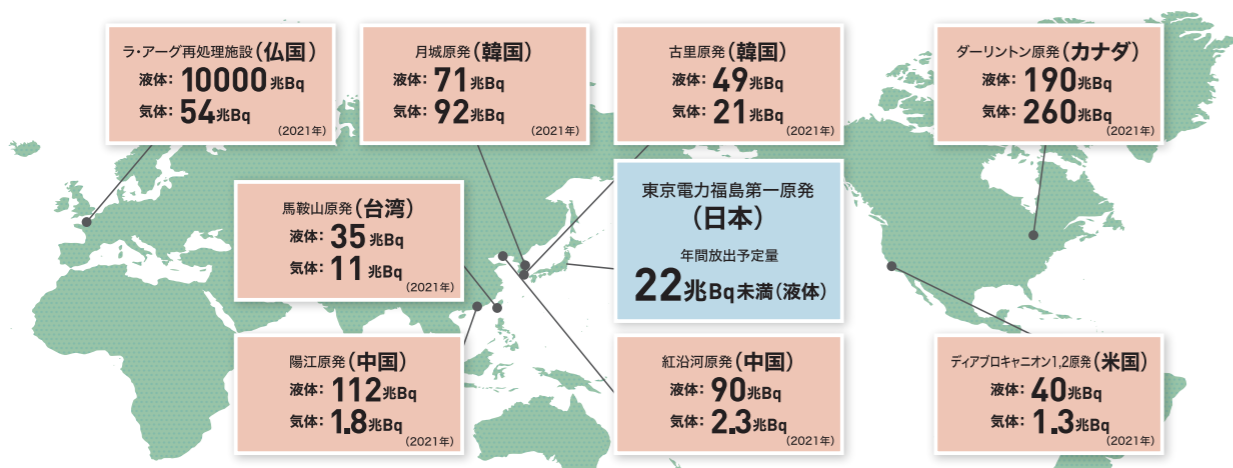
日本原子力研究開発機構 (JAEA)



ALPS処理水の海洋放出について

トリチウムの年間処分量 ～ 国内外の例 ～

トリチウムは、国内外の原発・再処理施設においても、各国・地域の法令を遵守した上で、液体廃棄物として海洋や河川等へ、また、換気等にもない大気中へ排出されています。



出典：カナダ：CNSC, Radionuclide Release Datasets その他：電力事業者の報告書より作成



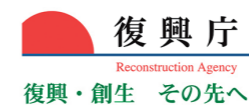
ALPS処理水について
詳しく知りたい方はこちらから

みんなで知ろう ALPS処理水



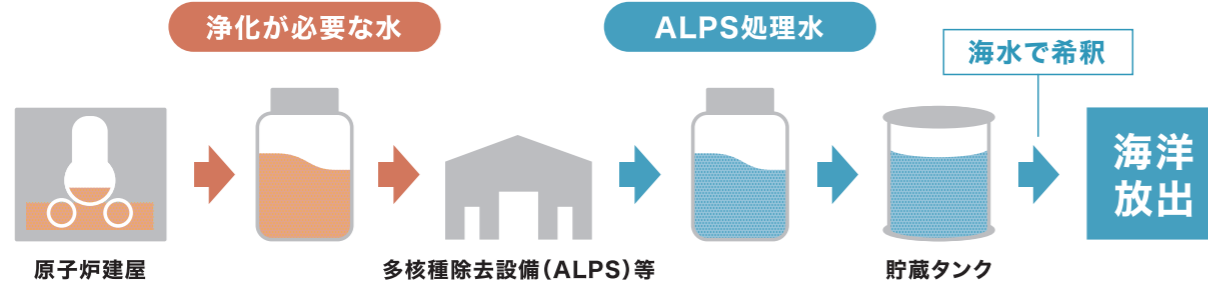
知るとい
復興支援があります

福島は今



ALPS処理水について

ALPS処理水とは、東京電力福島第一原子力発電所の建屋内にある放射性物質を含む水について、トリチウム以外の放射性物質を、安全基準を満たすまで浄化した水のことで、トリチウムについても安全基準を十分に満たすよう海水で大幅に薄めてから放出します。

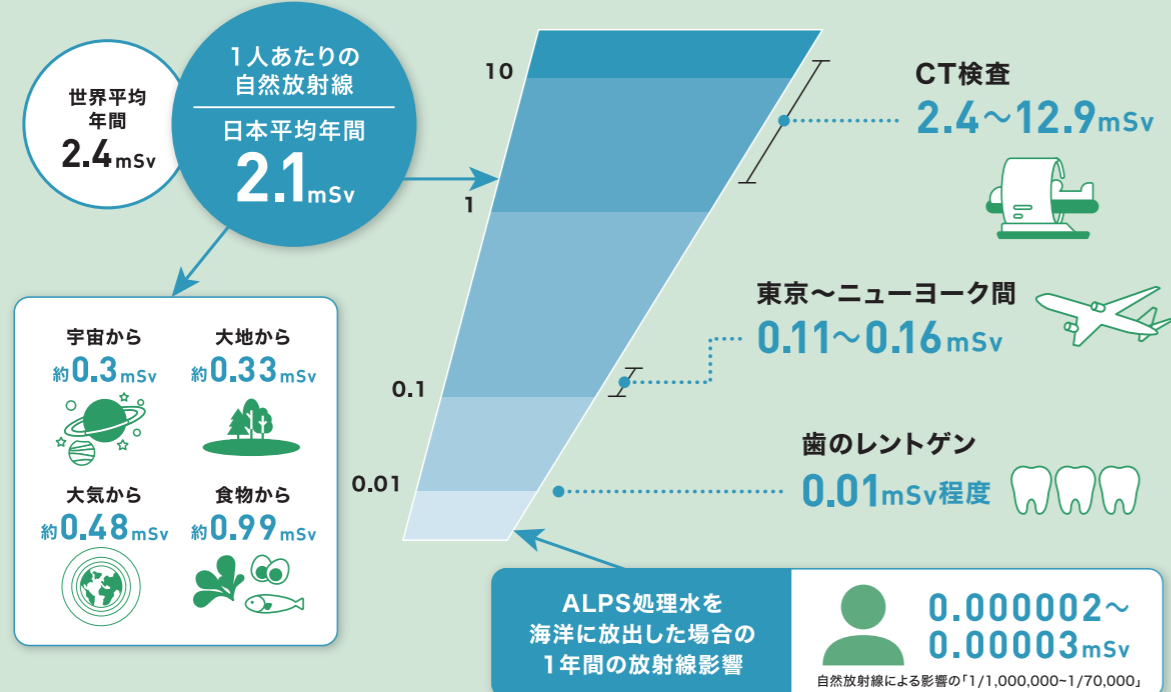


放射線による人体への影響について

国際的な基準・ガイドラインに沿って、海洋放出による人体への影響を評価しています。その影響は、日常受けている放射線(自然放射線)からの影響と比べ無視できるほどです。

1年間の放射線の影響

シーベルト(Sv)は、放射線によって人体がどれくらい影響を受けるかを表す単位で、数値が大きいほど「人体が受ける影響が大きい」ことを意味します。
1ミリシーベルト(mSv) = 1000分の1シーベルト(Sv)



出典:東京電力「多核種除去設備等処理水(ALPS処理水)の海洋放出に係る放射線環境影響評価結果(建設段階)」(2023年5月時点)、一般社団法人日本原子力文化財団「原子力総合パンフレット2022年度版」をもとに作成

IAEAによる安全性の確認

令和5年7月に公表された国際原子力機関 (IAEA)の包括報告書では、ALPS処理水の海洋放出について、「国際安全基準に合致」し、「人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響となる」と結論づけています。

また、グロッシェーIAEA事務局長は、「処理水の最後の1滴が安全に放出し終わるまで IAEAは福島にとどまる」とコメントしています。



東京電力福島第一原子力発電所を視察するグロッシェーIAEA事務局長
出典:東京電力ホールディングス



グロッシェーIAEA事務局長の表敬を受ける岸田総理
出典:首相官邸ホームページ

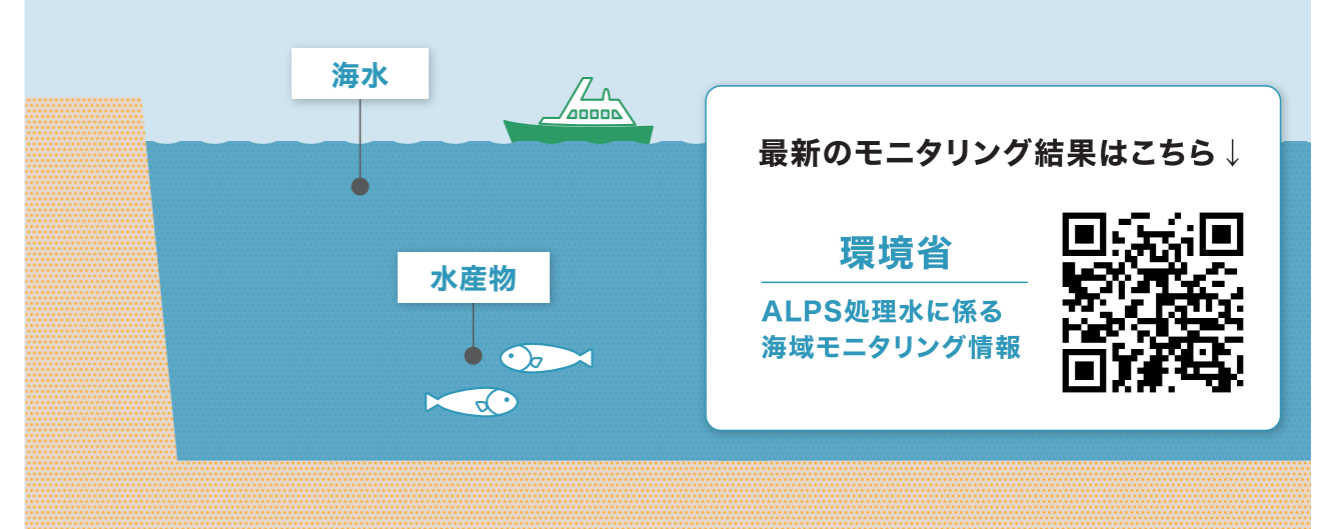
モニタリング検査の実施

放出後、関係機関で、海水、水産物のモニタリングを行っており、これまで計画どおり安全に放出できていることが確認されています。

モニタリング検査の結果は速やかに公開しています。ぜひ一度ご覧ください。

海域でのモニタリング

対象放射性物質:セシウム、ストロンチウム、トリチウムなど



最新のモニタリング結果はこちら↓

環境省

ALPS処理水に係る
海域モニタリング情報

